

# Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 全産業活動指数(2008年8月)

発表日 2008年10月22日(水)

～減速感が鮮明に～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 エコノミスト 岩田 陽之助

TEL : 03-5221-4525

(単位: %)

		全産業活動指数												
		前期比		前年比		第3次産業活動指数		鉱工業生産指数		公務等活動指数		建設業活動指数		
		前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	
07	4-6月	0.3	1.3	0.7	1.5	0.4	3.2	▲ 0.5	▲ 0.4	▲ 0.4	▲ 3.0	▲ 0.4	▲ 6.8	
	7-9月	0.1	1.0	0.1	1.5	1.6	2.9	0.1	▲ 0.7	▲ 5.9	▲ 6.8	▲ 6.8	▲ 6.8	
	10-12月	▲ 0.1	0.7	▲ 0.1	0.9	1.8	4.2	▲ 0.1	▲ 0.6	▲ 4.8	▲ 11.0	▲ 4.8	▲ 11.0	
08	1-3月	▲ 0.9	0.4	▲ 1.1	0.6	▲ 2.2	2.3	▲ 0.7	0.0	0.0	▲ 9.6	0.0	▲ 9.6	
	4-6月	0.5	▲ 0.5	0.9	▲ 0.2	▲ 0.1	0.9	0.2	▲ 0.4	▲ 1.7	▲ 11.9	▲ 0.4	▲ 11.9	
07	6月	0.3	1.2	0.2	1.5	1.0	2.4	0.4	▲ 0.5	▲ 0.1	▲ 2.6	▲ 0.1	▲ 2.6	
	7月	▲ 0.3	1.7	▲ 0.3	1.7	▲ 0.1	4.2	0.0	▲ 0.5	▲ 1.9	▲ 3.2	▲ 0.5	▲ 3.2	
	8月	0.6	1.7	0.6	2.1	1.7	4.4	▲ 0.1	▲ 0.8	▲ 3.8	▲ 6.9	▲ 0.1	▲ 6.9	
	9月	▲ 0.9	▲ 0.3	▲ 0.7	0.5	▲ 1.3	0.4	0.3	▲ 0.9	▲ 3.8	▲ 10.2	▲ 0.3	▲ 10.2	
	10月	0.6	1.3	0.3	1.3	2.6	5.9	▲ 0.3	▲ 0.7	▲ 1.8	▲ 11.5	▲ 0.3	▲ 11.5	
	11月	▲ 0.2	1.2	0.1	1.7	▲ 1.2	4.1	0.0	▲ 0.4	1.3	▲ 10.8	▲ 0.0	▲ 10.8	
	12月	▲ 0.2	▲ 0.3	▲ 0.5	▲ 0.1	1.0	2.7	0.0	▲ 0.6	0.1	▲ 10.7	▲ 0.0	▲ 10.7	
	08	1月	0.0	0.6	0.4	1.0	▲ 1.9	2.9	▲ 0.4	▲ 0.7	0.4	▲ 10.1	▲ 0.4	▲ 10.1
		2月	▲ 1.3	1.8	▲ 1.6	1.7	▲ 0.3	5.1	▲ 1.3	1.4	▲ 2.6	▲ 9.6	▲ 1.3	▲ 9.6
		3月	0.3	▲ 1.0	0.0	▲ 0.5	▲ 1.4	▲ 0.7	1.7	▲ 0.6	2.5	▲ 9.2	▲ 0.7	▲ 9.2
		4月	0.8	0.3	1.9	0.7	▲ 0.4	1.8	▲ 0.3	▲ 0.3	▲ 1.0	▲ 10.6	▲ 0.3	▲ 10.6
		5月	0.4	▲ 0.5	▲ 0.2	▲ 0.2	2.6	1.2	▲ 0.1	▲ 0.3	▲ 1.8	▲ 12.2	▲ 0.1	▲ 12.2
6月		▲ 1.0	▲ 1.3	▲ 1.0	▲ 1.0	▲ 1.3	0.0	▲ 0.3	▲ 0.7	▲ 1.1	▲ 12.9	▲ 0.3	▲ 12.9	
7月		0.8	0.3	1.2	0.7	1.1	2.4	▲ 0.4	▲ 1.0	▲ 1.7	▲ 12.6	▲ 0.4	▲ 12.6	
8月		▲ 1.8	▲ 3.4	▲ 1.4	▲ 2.3	▲ 4.1	▲ 6.9	0.1	▲ 1.2	1.9	▲ 7.9	▲ 0.1	▲ 7.9	

(出所) 経済産業省「全産業活動指数」

## ○ 全産業活動指数：大幅な下げ

8月の全産業活動指数は前月比▲1.8%とほぼ事前のコンセンサス（同▲1.7%、レンジ：▲2.0%～▲0.9%）通りの結果となった。7-8月平均の4-6月期対比でも▲0.6%となり、全産業活動指数の減速感が明らかになってきた。

内訳をみると、プラスに寄与した指数は、建設業活動指数（同：+0.09%ポイント）、公務等活動指数（同：+0.01%ポイント）であった。一方、マイナスに寄与した指数は第3次産業活動指数（前月比寄与度：▲0.86%ポイント）、鉱工業生産指数（同：▲0.88%ポイント）であった。

個別に見ると、第3次産業活動指数は、前月比▲1.4%となった。輸出の減速などから卸売業が低調に推移した事に加え、気温が7月より低めで、冷房需要がやや減退し電気業などの関連する業種が指数を下押しした。鉱工業生産指数は、前月比▲4.1%と悪化した。建設業活動指数は前月比+1.9%、公務等活動指数は前月比+0.1%となった。

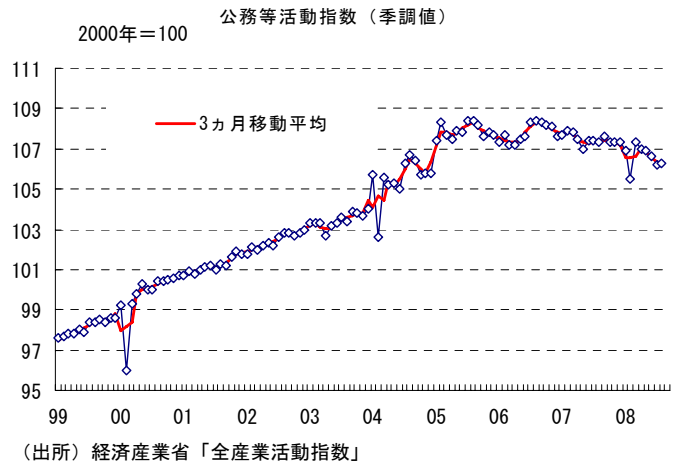
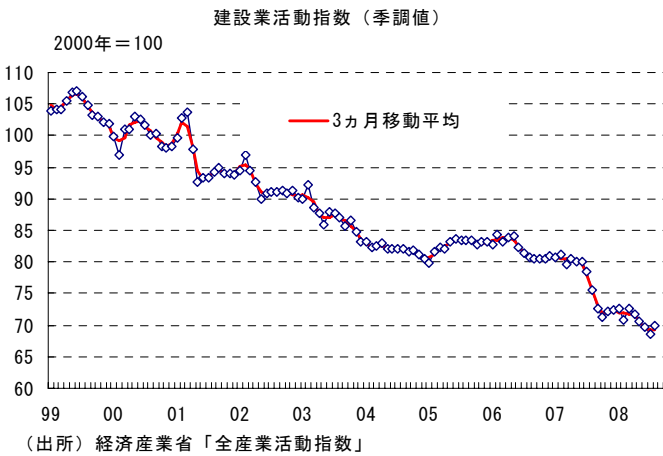
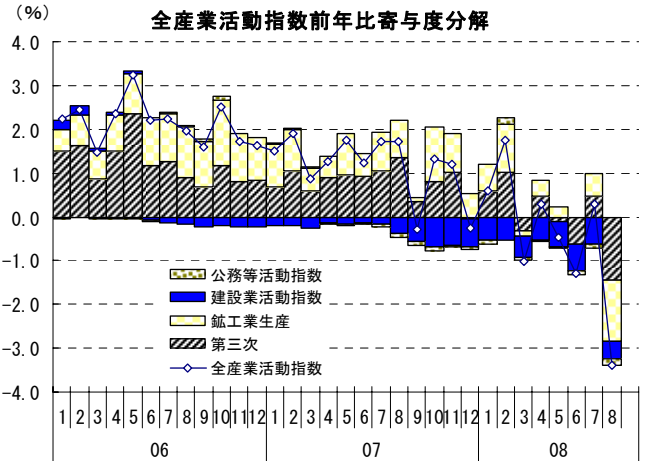
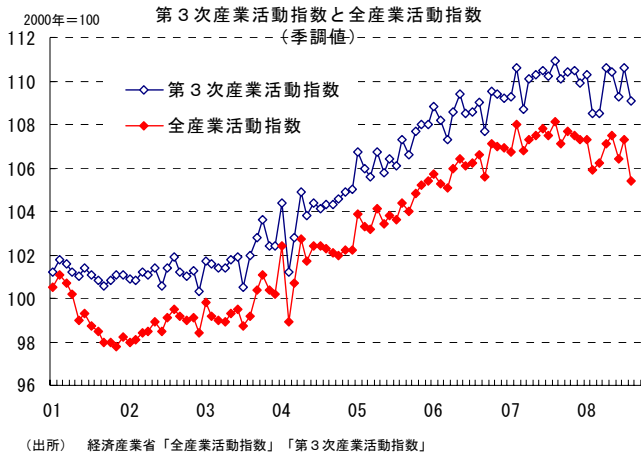
## ○ 今後も苦戦が予想される

全産業活動指数は、先行きも厳しい展開が続くそう。まず、鉱工業生産指数に関しては、輸出の減速が続くことやIT部門での在庫調整などを背景に、当面は輸送機械やIT部門で不振が続くと予想される。また、ここに来てIT部門以外の素材業種などで、出荷在庫バランスが悪化しており、さらなる下振れリスクに注意が必要だ。

第3次産業活動指数についても、回復は期待しがたい。原油価格の下落から、消費者物価は7-9月をピークに伸びが鈍化すると思われるが、雇用・所得環境の悪化や株安に伴う消費マインド悪化から、小売業や対個人サービス業などは引き続き低調に推移するだろう。企業部門についても、企業の収益は大きく悪化し

ており、コスト削減から対事業所サービス等の活動が抑制される可能性が高い。また、国内の低迷に加え、世界経済の減速感も鮮明になってきており、これまで好調を維持してきた卸売業も減速するだろう。その他の部門についても、株価の下落や貸し出しの減少などから、金融・保険業などが悪化する懸念も強い。

総じて見ると、指数の大半を占める鉱工業生産指数、第3次産業活動指数ともに、懸念材料が多く、全産業活動指数が低下傾向を辿る可能性は高いと言えるだろう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。